

明日を守る税

練馬区立大泉学園桜中学校 3年 石川 那奈

令和二年は、新型コロナウイルス感染症の拡大で生活に大きな変化が起きています。この今まで経験したことのない事態をきっかけに、社会の仕組みや税の使いみちについてあまり興味のなかった私も、日々の報道を注意深く受け留めるようになりました。

中でも感染対応に当たる保健所の重要性に関心を持ちました。公民の授業では、社会保障制度の四つの柱の一つである公衆衛生活動を担うと学習しましたが、社会にとって必要でも、企業の利益が見込めないようなサービスを、政府が税金で提供するという仕組みは、実際このようなことなのだと理解しました。

私はこれまで、食中毒が発生した時に立入検査や消毒を行うのが保健所の仕事だという印象を持っていました。私自身が保健所の方と直接関わった記憶もありません。しかしそれは言い換えると、業務に携わってくださる方々のおかげで私の周りでは環境衛生が整えられ、感染症の予防がなされ、身の危険を感じることなく生活しているということなのかも知れません。思い返して、手元にある母子手帳を見てみると、生まれてから受けた検診や予防接種がいくつも記録されていました。私は父の仕事の都合で、七回引越しを経験しましたが、日本のどこへ行っても適切な時期に通知をもらい、漏れることなくそれらを受診出来たことは見知らぬ土地で育児をする母にとって大変心強かったそうです。私の気付かない間にも様々な場面で公的な支援を受けていたのだと分かりました。

私は今回の感染症の影響を目の当たりにして、自分と大切な人の健康を守る行動の大切さを感じています。今出来ることは限られていますが、ワクチンで予防出来る感染症には積極的に対応したいと考えます。思えば、幼い頃に受けた予防接種は痛くて怖いものでしかありませんでした。それから少し成長すると、大きな病気をしないための注射なのだと教わりました。そして今、予防接種は個人の健康を守るだけでなく、地域の集団感染を防ぐこと、受けたくても受けられない妊婦さんや赤ちゃん達を守ることに繋がることを知りました。予防のため、継続して組織的に接種を行う事は、政府の判断と税金が無くては出来ないことだと思います。また予防接種に限らず、多くの方が健康で安心な生活を送るために納税は必要不可欠だと重ねて思いました。

自分が社会に支えられて成長したと考ええると、感謝の気持ちと責任感が湧いてきます。今、日本では少子高齢化が進行しています。必然的に、社会保障費の増加に伴った納税者の負担は大きくなり続けると考えられています。私は将来公務員になって、日本に住む人々が大切な人と安心して暮らせる社会を築きたいと思っています。そのために私も、社会の一員として怠ることなく、しっかりと納税の義務を果たしていきます。そして、将来の社会に微力ながら貢献したいです。